中国における葬礼の地域差と歴史的変化ー伝統の継承と変容ー

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2017-10-05
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 山本, 恭子, Yamamoto, Kyoko
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/43781

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

博士論文概要

中国における葬礼の地域差と歴史的変化

－伝統の継承と変容－

Ⅰ.博士論文の構成

博士論文「中国における葬礼の地域差と歴史的変化－伝統の継承と変容－」の構成は以下の通りである。

第一章　序論

1.目的と手法

2.章立てと使用テキスト

3.地方志の資料的特徴

4.表記について

第二章　文献からみる中国の葬礼－古礼から伝統葬礼まで

1.『儀禮』における葬礼

2.朱熹『家禮』

3.『家禮』における葬礼

4.邱濬『文公家禮儀節』

5.地方志(旧志)にみる『家禮』、『文公家禮儀節』の影響

6.当代地方志(新志)における伝統葬礼

6.1.死亡当日（一日目）

6.2.第二日目以後

6.3.出棺前日

6.4.出棺、埋葬

6.5.埋葬後

7.小結

第三章　死者の清めと更衣に関わる習俗の変容

1.「穿壽衣」・「買水」・「淨面」

1.1.「穿壽衣」

1.2.「買水」

1.3.「淨面」

1.4.「穿壽衣」、「買水」、「淨面」民俗地図からの考察
2.「沐浴」と「淨面」
2.1.「沐浴」の形態
2.2.「沐浴」の変化
2.3.「沐浴」と「淨面」: 民俗地図による考察
第四章　「招魂」・「報廟」習俗の変容
1.「報廟」
2.「報廟」の行き先
3.「復」と「招魂」
4.廟で行われる「招魂」
5.近世華北における「招魂」の変容と「報廟」の起源
6.小結
第五章　現代中国における葬礼習俗の変容と伝統継承の担い手
1.当代地方志(新志)における江蘇省北部地域の伝統葬礼
2.江蘇省北部地域における殯葬改革
3.江蘇省北部地域における葬礼の現状
3.1.死亡前、「穿壽衣」
3.2.葬礼準備
3.3.「報喪」
3.4.「報廟」
3.5.火葬
3.6.入棺
3.7.「開弔」、「辭靈」
3.8.「送盤纏」
3.9.出棺、埋葬
4.伝統葬礼の伝承とその担い手
5.小結
第六章　結論
参考文献一覧
文献調査用当代地方志一覧

Ⅱ.概要

漢民族の葬礼は、『儀禮』、『禮記』に定められた先秦の古礼を規範としながら、近世に至るとそれを簡略化した朱熹『家禮』が普及し、二十世紀前半まではそれが士大夫の順守すべき葬礼のあり方とされてきた。一方、近世の民間では、そのような規範から変容或いは逸脱するような習俗が広がりをみせた。各地域で発展した儀礼、習俗は一般に「地域により異なる」とされるのみで、具体的な地域差及び歴史的変化の様相は明らかではない。現在、中華人民共和国では、「殯葬改革」(火葬の推進、墓地改革等)が進められ、一般に伝統的な葬礼習俗は衰退したとされる。本論文では、殯葬改革の影響を受ける以前、即ち清末から民国期に民間で行われていた葬礼習俗を「伝統葬礼」と呼び、その地域差を明らかにしながら、歴史的変化を考察することを目的とした。

第一章では、まず、中国人の霊魂観とそれを反映した葬礼の意義について述べた。次に、研究の目的を述べ、使用テキスト、資料を挙げた。本研究では地域差を明らかにするために民俗地図を作成した。地図作成のための基礎資料としては中華人民共和国で編纂・出版された当代地方志(新志)を使用した。

第二章では、まず、『儀禮』、『家禮』に定められた儀礼の体系を図式化して整理した。次に、清代、民国期の地方志(旧志)の記述を検証し、近世においては、当時、規範とされた『家禮』に一律に依っていたのではなく、儀式形態の変化や、規範から逸脱した習俗が現われていたことを指摘した。さらに、当代地方志が反映する伝統葬礼の体系を図式化し、『家禮』から継承されたとみられる儀礼習俗が維持される一方、規範から変容、逸脱した習俗が存在することを指摘した。

第三章、第四章では、古礼や『家禮』の規範からはずれた葬礼習俗について、その形成と変化の過程を探った。

研究手法はW・A・グロータース神父の提唱になる「民俗地理学」(folklore geography)に倣った。「民俗地理学」は方言地理学と同様に、

地理的分布(空間的変異)が歴史を反映するという考えに基づいている。本来、民俗地理学には現地調査によるデータが必要である。しかし、これまでのところ漢民族の葬礼に関する体系的な調査は行われてきていない。そこで、本論文では次善の策として当代地方志を基礎資料とし、その中の「建国以前に行われていた伝統的葬礼」とされる情報を地図化した。また、習俗の形成や変化の過程を推定するため、民国期以前に刊行された旧志、筆記小説、白話戯曲等の文献を参照資料とした。

第三章では、死装束への更衣である「穿壽衣」と遺体の清めに関わる「買水」、「淨面」、「沐浴」を取り上げた。それぞれの習俗について、形態の類型化に基づく民俗地図を作成し、各類型の地理的分布を示した。それにより北方、南方それぞれに異なる類型が現れ、南北対立の様相を呈することを明らかにした。また、文献記述を参照しながら、北方では「沐浴」が衰退し、「淨面」がその代替となった可能性があること等、個々の習俗が関連しつつ変化した過程を推定した。

第四章では、「招魂」と「報廟」を取り上げた。「招魂」は死者の魂を呼び戻す儀式で、古礼や『家禮』では「復」と称される。「報廟」は廟神に死者の魂の到着を知らせる儀式で、近世の華北で広まったとされる習俗である。従来、両者は関連付けて論じられることがなかったが、本研究は儀式の類型化と民俗地図によって、近世華北において、「招魂」が「報廟」に取り込まれることで変容し、「報廟」の起源となったとする新たな仮説を提出した。

第五章では、江蘇省北部地域における聞き取り調査の結果を事例研究として報告した。まず、当代地方志に反映された調査地域の伝統葬礼を図式化して整理した。次に、聞き取り調査による葬礼の現状を報告した。調査地域では、殯葬改革により葬礼に火葬が組み込まれた結果、儀式形態や手順には変化が生じているが、「大老執」と呼ばれる人々によって伝統葬礼は今もなお継承されていることを述べた。

第六章では、各章のまとめをした後、今後の課題と本研究の展望を述べた。中国における葬礼研究には、従来、地域差が歴史的変化を反映するという観点がなかった。本論文は、葬儀を構成する各種儀礼の形態を類型化・地図化し、文献資料を併せ参照することによって、葬礼の歴史的変化を体系的に論じた。地図に現れる南北差は、一方が規範の継承、他方が逸脱または変容である場合が多い。中国における葬礼の歴史的変化には、常にこの二つの側面が存在したと考えられる。